第56回 日本小児感染症学会総会・学術集会

セミナー名 ： スポンサードセミナー

演題

A群溶血性レンサ球菌感染症を考える

座長 **津川 毅** 先生

（札幌医科大学 医学部 小児科講座）

演者 **三鴨 廣繁** 先生

（愛知医科大学 医学部・臨床感染症学講座）

日時

2024年11月17日(日) 10:00-10:50

会場

D会場

（出島メッセ長崎1階 会議室103）

整理券の配付は行いません。

本セミナーへのご参加には、本学術講演会への参加登録が必要です。
参加登録は、オンラインまたは現地会場にて受け付けいたします。
詳細につきましては、本学会のWEBサイトをご確認ください。

共催 第56回日本小児感染症学会総会・学術集会 ／ 東ソー株式会社 TOSOH

要旨

スポンサードセミナー

A群溶血性レンサ球菌感染症を考える

愛知医科大学　医学部・臨床感染症学講座

三鴨 廣繁 先生

A群レンサ球菌（Group A *Streptococcus,* GAS）は、多様な感染症を引き起こす重要な病原菌である。その中でも特に注目されるのが、劇症型レンサ球菌感染症（Streptococcal Toxic Shock Syndrome, STSS）や壊死性筋膜炎（Necrotizing Fasciitis）である。一般的に、A群レンサ球菌は、咽頭炎や皮膚感染症、続発症として、猩紅熱、リウマチ熱などの多様な臨床症状を引き起こす。一般的に抗菌薬で治療が可能であるが、適切な治療が行われない場合、重篤な合併症を引き起こすことがある。STSSは、A群レンサ球菌が血流に侵入し、全身的な炎症反応を引き起こすことで発症する。高熱、低血圧、多臓器不全などの症状を伴い、迅速な診断（臨床症状の把握、画像診断、培養、PCR検査）と治療が求められる。M蛋白は、A群レンサ球菌の細胞壁に存在する主要な表面抗原であり、菌の病原性に重要な役割を果たす。M蛋白は、免疫回避、組織侵入、毒素産生の観点から重要な病原因子である。M蛋白は、スーパー抗原として働き、過剰な免疫反応を引き起こし、劇症型感染症の発症に寄与する。A群レンサ球菌感染症の予防には、個人の衛生管理が重要である。また、感染が疑われる場合は早期に医療機関を受診し、適切な治療を受けることが推奨される。